

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-254255

⑬ Int.Cl.<sup>9</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)11月13日

H 04 L 27/22  
H 04 B 7/26  
H 04 J 3/00  
H 04 L 27/22

B 7240-5K  
7608-5K  
H 7925-5K  
D 7240-5K

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

⑮ 発明の名称 周波数補正装置

⑯ 特 願 平2-52131

⑰ 出 願 平2(1990)3月2日

⑱ 発 明 者 松 岡 剛 史 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
⑲ 発 明 者 大 西 博 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
⑲ 発 明 者 山 本 裕 理 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内  
⑳ 出 願 人 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地  
㉑ 代 理 人 弁理士 栗野 重幸 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

周波数補正装置

2. 特許請求の範囲

- (1) 一定の周期でトレーニング用の信号の入った連続する信号を変調した直交ディジタル変調波をベース・バンド帯に復調する直交復調器と、その直交復調器からのベース・バンド帯に復調された信号のうち特定の2つの信号の、位相の時間的変動を検知する位相検知器と、その位相検知器の制御によって周波数に変化する内部発振源とを具備する周波数補正装置。
- (2) 位相検知器は、信号の位相の時間的変動の平均値を検知する請求項1記載の周波数補正装置。
- (3) 送信が、時分割多重アクセス方式である請求項1記載の周波数補正装置。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は多重の反射波(マルチ・パス)および、

伝播特性の時間的変動(フェージング)が伝送路

の特性を劣下させているような伝送路、たとえば、固定無線局(基地局)と移動無線機(移動端末)との高速データの無線伝送における周波数補正装置に関するものである。

従来の技術

最近、移動通信システムでは、その利用分野の増大により、ディジタル・データの高速伝送に対する要求が高まっている。基地局と複数の移動端末で構成される移動通信システムにおいては、基地局と各移動端末の送信搬送波の周波数は同一ではない。伝送路がほぼ理想的な伝播特性を持っているとみられる場合には、基地局からの受信変調波をディスクリミナータ検波し、これをもとに各移動端末の内部発振源の周波数を補正することができる。

しかし、マルチ・パス等によって、信号の符号間干渉があるような場合には、正確な周波数情報を得ることができず、周波数補正を行うことはできない。

そこで、従来の技術では、マルチ・パスの影響